第８課　什一の影響力

【暗唱聖句】

「あなたがたは知らないのですか。神殿で働く人たちは神殿から下がる物を食べ、祭壇に仕える人たちは祭壇の供え物の分け前にあずかります。同じように、主は、福音を宣べ伝える人たちには福音によって生活の資を得るようにと、指示されました」第一コリント9：13，14

【今週のテーマ】

今週は什一の分配が他者にとってどういう意味を持ち、また私たちの霊的生活にどのような影響を及ぼすのかといったことを考えます。

【日曜日・宣教活動にともに資金提供する】

イエス様は全世界に出て行って「福音を宣べ伝え」（マルコ16:15）、「すべての民を弟子とし、命じておいたことをすべて守るように教えなさい」と言われました。いわゆる大宣教命令と呼ばれるものです。この神様の使命を達成するためには資金が必要です。什一はこの使命を達成するために使われます。什一は平等な制度であり、アブラハムやヤコブの時代から行われてきました。

「敵をあなたの手に渡されたいと高き神がたたえられますように。」アブラムはすべての物の十分の一を彼に贈った」創世記4:20

今日、忠実に什一が捧げられるなら、神様の宣教は想像できないほど進展することでしょう。

【月曜日・神の祝福】

「十分の一の献げ物をすべて倉に運びわたしの家に食物があるようにせよ。これによって、わたしを試してみよと万軍の主は言われる。必ず、わたしはあなたたちのために天の窓を開き、祝福を限りなく注ぐであろう」マラキ3:10

神様は什一を通して私を試してみよと言われました。通常、聖書は神様を試みてはならないと教えています。唯一の什一だけは試してみよと言われているのです。何を試すのかというと、神様が天の窓を開き、わたしたちに祝福を限りなく注ぐかどうかということをです。ゆえに什一と信仰は密接につながっているのです。什一を捧げると、お金を無くなってしまうことを恐れる人もいるかもしれません。しかし、神様は必ず支えてくださいます。いや、単に支えるだけでなく、天の窓が開かれて、驚くばかりに恵みと祝福を降り注いでくださるのです。

ところで、この神様が降り注いでくださる祝福とは、この世のものだけでなく、救い、幸福、平安など霊的なものも含まれており、神様は常に最善を成してくださることを意味しています。そして、この神様から受けた祝福を、わたしたちは他者に分け与えていくことが期待されています。神様からの祝福は、祝福された人を通して広がっていくのです。

「悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。祝福を受け継ぐためにあなたがたは召されたのです」第一ペテロ3:9

ペテロは、どのような人に対しても、祝福を祈りなさいと教えています。その理由は、「祝福を受け継ぐために私たちは召された」からだと言っています。

「あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。」使徒20:35

イエス様が「受けるよりは与える方が幸いである」と言われたように、祝福を受け継ぐために召されたのは、他社を幸せにすることで、自分自身も幸福を得るためです。

【火曜日・什一の目的】

「聖書には、「脱穀している牛に口籠をはめてはならない」と、また「働く者が報酬を受けるのは当然である」と書かれています」第一テモテ5:18

パウロは働き人が報酬を受けるのは当然であると語っています。什一の目的は、祭司を務めるレビ人を支えることでした。

「見よ、わたしは、イスラエルでささげられるすべての十分の一をレビの子らの嗣業として与える。これは、彼らが臨在の幕屋の作業をする報酬である」民数記18:21

今日、レビ人に相当するのが福音を宣べ伝えるために働いている人たちです。什一の制度を通して私たちは神様の働きを支援することができます。ところで、パウロはコリントの教会に対して「わたしは、他の諸教会からかすめ取るようにしてまでも、あなたがたに奉仕するための生活費を手に入れました」（第二コリント11:8）と少し皮肉を込めて語っています。他の諸教会とはコリントの教会よりも貧しかったマケドニア地方の教会のことで、コリントの教会を助けるために、マケドニアの教会が自分の生活をサポートしてくれたと言っているわけですが、これはつまり、福音を伝えるために通常の仕事ができない伝道者たちを、教会の人々が支えるべきだと言っているわけです。このように聖書的に什一というのは、神様の働き人を支えるために、さらに広い意味では伝道のために用いられるべきもので、その他の目的のために使われるべきものではありません。

【水曜日：倉】

神様は「十分の一の献げ物をすべて倉に運びわたしの家に食物があるようにせよ」（マラキ3:10）と言われましたが、「倉」とはどこのことでしょうか。また「わたしの家」とはどこのことでしょうか。

「見よ、わたしは、イスラエルでささげられるすべての十分の一をレビの子らの嗣業として与える。これは、彼らが臨在の幕屋の作業をする報酬である」（民数記18:21）とあるように、「倉」あるいは「わたしの家」とはレビ人、あるいはレビ人が奉仕している神殿、幕屋のことであることがわかります。それによってレビ人の働きが支えられました。

この倉という言葉は、歴代誌上26:20や歴代誌下31:11～13などを見ると、「神殿（の宝物庫）」となっています。現代に置き換えればそれは教会であり、また教会を通して教区、教団において保管されることになります。

【木曜日・什一と信仰による救い】

「なぜなら、律法を実行することによっては、だれ一人神の前で義とされないからです。律法によっては、罪の自覚しか生じないのです」ローマ3:20

什一は私たちが救いを得る手段ではありません。これはいかなる律法の教えも、それを実行することによって神の前に義とされることはないと書かれてある通りです。そもそも什一は神様のものなのですから、神様のものをお返ししたところで、私たちが称賛を受けるものは何もないのです。わたしたちが義とされるのは、「ただキリスト・イエスによる贖いの業を通して、神の恵みにより無償で義とされるのです」（ローマ3:24）。

なぜ私たちが什一を納めるのかと言えば、神様がそのようにせよと言われたからとしか言いようがないのです。マラキ3:10では什一を携えることによって神様は祝福を降り注いでくださると約束されていますが、この祝福をいただくために什一を携えるのでも本来的にはないのです。

「なぜなら、わたしたちは神に造られたものであり、しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、キリスト・イエスにおいて造られたからです。わたしたちは、その善い業を行って歩むのです」エペソ2:10

わたしたちは善い業を行うために神様に造られたのです。その善い業とは、神様が言われたことを守ることも含まれるわけであり、そこには当然什一も含まれているのです。